

豊岡市記者配布資料

年月日	部課名	電話	責任者 (役職名)
2025 年 10 月 20 日(月)	日高振興局 地域振興課	0796-21-9056 (内線 5405)	吉田政明 (課長)

(件名)

2024「植村直己冒険賞」受賞者 吉田勝次 特別展 「人類未踏の洞窟探検 - 粘着質な探求心 - 」の開催

(内容)

市立植村直己冒険館では、2025 年度第 2 回企画展として、2024「植村直己冒険賞」受賞者の吉田勝次さんの特別展を開催します。

1 日時

10 月 18 日(土)～3 月 31 日(火)

午前 9 時～午後 5 時(最終入館: 午後 4 時 30 分)

※水曜休館(祝日の場合は翌日休) 12 月 29 日～1 月 3 日休館

2 場所

市立植村直己冒険館 企画展示室

3 展示構成

- (1) 植村直己冒険賞とは
- (2) 探検経歴
- (3) 洞窟探検の紹介
- (4) 装備品等
- (5) 動画

4 入館料

大人(高校生以) 550 円

小人(3 歳以上) 330 円

※ミュージアムエリアのみ、どんぐり base への入館は別途必要

《企画展に関する問合せ》

植村直己冒険館(担当: 西谷)

Tel 44-1515

《植村直己顕彰事業に関する問合せ》

日高振興局地域振興課(担当: 川角・和田)

Tel 21-9056(内線: 5415)



2025年度 第2回特別展示概要

2025.10.16 豊岡冒険館(株)

名 称	2024「植村直己冒険賞」受賞者 吉田勝次 特別展
テ ー マ	人類未踏の洞窟探検 -粘着質な探求心-
期 間	令和7年10月18日(土)～令和8年 3月31日(火)
展示場所	豊岡市立植村直己冒険館 企画展示室
趣 旨	<p>2024「植村直己冒険賞」受賞者、吉田勝次さんの探検についての特別展を開催します。</p> <p>一般的にはあまり知られていませんが、洞窟探検は、湿度が90%あったり真っ暗闇だったり、「痛い、寒い、苦しい」ことがたくさんある中を奥へと進みます。そして様々なアウトドアの技術が必要とする難易度の高い探検です。洞口（洞窟の入り口）を見つけなければ探検は始まりず、また探検すればすごい成果が必ずでもものでもありません</p> <p>そのような探検を吉田勝次さんは、30年以上、名もなき山や僻地に行つて穴を見つけては入り、国内外、未踏の洞窟を求めて継続して探検しています。</p> <p>2018年、吉田勝次さんはラオスで情報を得て、世界最大級の可能性のある未踏洞窟の洞口を発見しました。このラオスのナムロッド洞窟を2019年、2022年、2024年の計三度にわたり探検し、2024年には、過酷な環境下で、未踏部分をケイブダイビングや人工登攀によって突破し、新たに約550mの未踏箇所を発見しました。</p> <p>今回の展示では、今回の受賞理由ともなったナムロッド洞窟の探検や、吉田さんの飽くなき探求心を紹介します。また、探検での創意工夫についても装備品を交えて紹介します。</p> <p>来館者には、①洞窟探検の怖さ ②吉田さんの飽くなき探求心の様子 ③吉田さんの創意工夫 ④実物に触れる の4点を感じてもらいたいです。「面白いな、こんな冒険もあるのか」ということを知っていただければと思います。</p>
展 示 構 成	<ol style="list-style-type: none">1. 植村直己冒険賞とは（冒険賞の内容、選考評）2. 探検経歴3. 洞窟探検をパネルで紹介（画像、ルート、各エリアのポイントなど）4. 洞窟探検の装備品等5. 動画
展 示 品	・ケイビングスーツやヘルメットなどの装備品
そ の 他	・リーフレットの配布

2025 10.18 (土) — 2026 3.31 (火)

2024「植村直己冒険賞」受賞者
吉田勝次 特別展

人類未踏の 洞窟探検

- 粘着質な探求心 -

地表下のまっくらで入り組んだ空間には
こわさも かんどうも ときどきも全部がある
見えないからこそ 知りたくなる
誰も知らないからこそ たしかめたい



植村直己冒険館
Uemura Naomi Memorial Museum

〒669-5346 兵庫県豊岡市日高町伊府785
tel.0796-44-1515 fax.0796-44-1514
info@boukenkan.com



9:00-17:00 (最終入館16:30)
水曜休館 (祝日の場合は翌日休)
※年末年始12/29~1/3 休館





人類未踏の 洞窟探検

- 粘着質な探求心 -

吉田勝次

Katsuji Yoshida

洞窟探検家 [1966年(昭和41年)生まれ 愛知県在住]



1988年冬に突然山に登りたくなり、冬山雪上訓練と登攀の指導を受け登山に没頭した。しかし、次第に踏破されているルートや型にはまった登山に物足りなさを感じるようになる。1994年にアウトドア雑誌の洞窟探検特集に目を奪われて、そこに紹介されていた浜松ケイビングクラブに電話をして洞窟探検に参加し、のめりこむ。1996年には仲間とJapan Exploration Team (日本探検チーム 通称J.E.Tジェット)を結成する。そこから現在まで30年以上洞窟探検を中心に活動続け、国内外の未踏洞窟を数多く探検している。2018年～2024年におこなったラオスの未踏洞窟ナムロッドの探検では、入洞について現地の人やテレビ局への粘り強い交渉を行い、期間内に3回の探検を実施。3回目の探検では、新たに約550mの未踏の空間を発見した。

受賞理由

「世界最大、世界最深」という記録的な洞窟を発見できる可能性も低く、社会的な意義や評価も低いかもしれない。それでも、何度も命の危険にさらされながらも未知未踏の世界を解明する魅力に取り憑かれて30年以上国内外の洞窟を探検していること、またラオスのナムロッド洞窟の未踏箇所を発見から、自身の好奇心に従って入念な準備と計画を持ち、人跡未踏の洞窟探検をおこなう姿が評価され、2024 植村直己冒険賞を受賞した。



© 吉田勝次

植村直己冒険賞とは

1996年に創設。世界的な冒険家である植村直己氏の精神を継承し、周到に用意された計画に基づき、不撓不屈の精神によって未知の世界を切り拓くとともに、人々に夢と希望そして勇気を与えてくれた創造的な行動(業績)について贈られる。[主催/豊岡市]

最近、メディアでの活躍が目まぐるしい吉田勝次さん。しかし、活動を開始して既に30年以上が経っています。今回の特別展では、未踏の洞窟探検家吉田勝次としてのスタートラインともいえる三重県の洞窟「霧穴」と、今回の受賞理由の一つでもあるラオス「ナムロッド洞窟」を中心に紹介します。普段の愉快的な姿や洞窟写真家としての姿だけではなく、30年間自分の中にある探求心を失うことなく、創意工夫をして取り組んできた姿もご覧ください。